



ルノー・日産  
サプライヤーCSR ガイドライン

2010 年 5 月  
ルノーS.A.S.  
日産自動車株式会社

# 目次

はじめに

サプライヤーCSR ガイドラインのポイント

1. ルノー・日産の調達基本方針
2. サプライヤーCSR ガイドライン
  - (A) 本ガイドラインの概要と活用について
  - (B) CSR の分野と項目
    - i) 安全・品質
    - ii) 人権・労働
    - iii) 環境
    - iv) コンプライアンス
    - v) 情報開示
3. サプライヤーの皆様へ

参考

- (I) 日産の CSR 基本方針
- (II) ルノーの CSR 基本方針

# はじめに

ルノーと日産は、グローバル市場で様々なサプライヤーの皆様と取引関係にあり、サプライチェーンのあらゆる段階において倫理、社会、環境に配慮したビジネスがなされることを目指しています。2006年には、この調達方針・理念についてルノーと日産の購買部門が共同で「The Renault Nissan Purchasing Way」にまとめ、サプライヤーの皆様と共有いたしました。以来、全てのビジネスにおいて社会的責任を果たすよう取り組んできました。

今年、ルノーと日産は企業の社会的責任(CSR)の取り組みをさらに推進し、サプライチェーン全体の社会・環境マネジメントを向上させたいと考えます。ルノーと日産は、互いのCSR方針および調達方針をもとに検討し、サプライヤーの皆様は、全ての法令・規範の確実な順守と、CSRに対する社内体制の強化をお願いすることといたしました。

ルノーと日産の事業活動が世界中に拡大する中、地球温暖化抑制のための二酸化炭素排出量削減要求の高まりなど、世界的に環境問題への関心が高まっています。そのため、私たちはCSRの取り組みについて、理解するだけでなく、サプライチェーンを含む事業の全ての領域で実行していく必要があります。

こうした状況を背景に、サプライヤーの皆様が自社の事業についてCSRの視点から振り返り、マネジメント体制を強化できるよう「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」を作成いたしました。皆様におかれましては、本ガイドラインを通じてルノーと日産のCSRに対する考え方をご理解いただき実践的なガイドとしてご活用いただくと共に、皆様のサプライチェーンにおいても、本書で取り上げている項目の浸透・普及に努めていただきたく存じます。

「信頼、敬意、透明性」を基本に、サプライチェーン全体のCSRマネジメント体制を強化し、共に利益ある持続的な成長を実現すべく、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

Renault-Nissan Purchasing Organization



Christian Vandenhende  
ルノー SVP  
Managing Director, RNPO  
Alliance Global Purchasing Director



山内康裕  
日産自動車 常務執行役員  
Deputy Managing Director, RNPO

## サプライヤーCSR ガイドラインのポイント

<p>1. 安全と品質</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 顧客のニーズに応える製品やサービスの提供</li> <li>・ 製品やサービスの安全確保</li> <li>・ 製品やサービスの品質確保</li> </ul>
<p>2. 人権と労働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別の禁止</li> <li>・ 人権尊重</li> <li>・ 児童就労の禁止</li> <li>・ 強制労働の禁止</li> <li>・ 賃金の法令順守</li> <li>・ 労働時間の法令順守</li> <li>・ 従業員との対話・協議</li> <li>・ 安全で健康な労働環境の確保</li> </ul>
<p>3. 環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境マネジメントの構築・運用</li> <li>・ 温室効果ガスの排出削減</li> <li>・ 大気、水、土壌汚染の防止</li> <li>・ 省資源、廃棄物削減</li> <li>・ 化学物質の管理</li> <li>・ 生態系の保護</li> </ul>
<p>4. コンプライアンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法令(競争法、輸出関連法規等)の順守</li> <li>・ 汚職防止</li> <li>・ 機密情報の管理・保護</li> <li>・ 知的財産の保護</li> </ul>
<p>5. 情報開示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ステークホルダーへの情報の開示</li> </ul>

# 1. ルノー・日産の調達基本方針

ルノーと日産は、ビジネスパートナーとの相互信頼を基本に、ともに利益ある持続的な成長を目指しています。我々は自社の要望のみを主張するのではなく、つねに対等な立場からサプライヤーの皆様からの意見、提案に耳を傾け、競争の激しい自動車業界において、ともに切磋琢磨し合うパートナーとして、ベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。

サプライヤー選定にあたっては、ルノーと日産は公平・公正かつ透明性を徹底した業務プロセスを適用しています。国籍、企業規模、取引実績の有無によらず、広く参入機会を提供しており、選定に際しては関係部門が一堂に会してサプライヤーの皆様からの回答を横断的に検討します。

実際の取引においても、「The Renault-Nissan Purchasing Way」を順守し、公平・公正な業務の徹底を高い水準で維持するよう努めています。日常の緊密なコミュニケーションに加え、アンケートや会議等を通じて皆様の意見を傾聴し、社外の視点からもチェックしています。

## The Renault-Nissan Purchasing Way

冊子の内容:

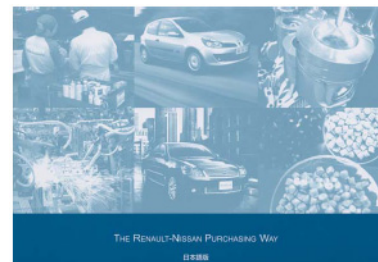
- ・スコープ
- ・バリュー

信頼（公平に、プロ意識をもって）

相手への敬意（約束、義務、責任を果たし）

透明性（オープンに、率直に、明快に）

- ・サプライヤー選定 — 基本原則
- ・サプライヤーへのサポート — ともにパフォーマンス最大化を目指すために
- ・皆様のベネフィット



## 2. サプライヤーCSR ガイドライン

### (A) 本ガイドラインの概要と活用について

- 本ガイドラインは、サプライヤーの皆様が、企業活動を CSR の視点で振り返り、さらなる向上に向けた明確な対応を進めていただくことを狙いに、共通項目をまとめたものです。特に、自動車産業において皆様の取り組みが期待される 5 分野・24 項目を選定しました。

### (B) CSR分野・項目

#### i) 安全・品質

- 顧客のニーズに応える製品・サービスの提供  
顧客のニーズを把握して、社会的に有用な製品を開発・提供する。社会的に有用な製品とは、年齢・性別・身体障がいの有無等にかかわらず、誰もが利用しやすい製品。あるいは、省エネ、省資源、環境保全等環境負荷の少ない製品のこと。
- 製品・サービスの安全確保  
各国・地域ごとに定められた安全法規等を満たした製品・サービスを生産・提供する。
- 製品・サービスの品質確保  
品質を確保する全社的な仕組みを構築・運用する。

## ii) 人権・労働

### ○差別

あらゆる雇用の場面(採用、雇用、昇進、給与、解雇、定年退職、業務付与、懲罰等)において、人種・国籍・性別・宗教・身体障がい・年齢・出身・その他を理由とした差別を行わない。

### ○人権尊重

人種・国籍・性別・宗教・身体障がい・年齢・出身・その他を理由とした、職場におけるいかなる形態のハラスメントも許さない。

### ○児童就労の禁止

各国・地域の法令による就労可能年齢に達しない未成年の就労は認めない。また、いかなるケースにおいても15歳未満の就労を認めない。

### ○強制労働の禁止

すべての労働は自発的であること、および従業員が自由に離職できることを確実に保証し、強制労働を行わない。

### ○賃金

最低賃金、超過勤務、賃金控除、出来高賃金、その他給付等に関する各国・地域の法令を順守する。

### ○労働時間

従業員の労働時間(超過勤務を含む)の決定、および休日・年次有給休暇の付与その他について、各国・地域の法令を順守する。

### ○従業員との対話・協議

従業員の代表、もしくは従業員と、誠実に協議・対話する。

従業員が自由に結社する権利または結社しない権利を、事業活動を行う国・地域の法令に基づいて認める。

### ○安全・健康な労働環境

従業員の職務上の安全・健康を最優先とし、労働災害の防止に最善を尽くす。

○ルノーと日産の基準

詳細は以下をご参照ください。

日産： グローバル行動規範

ルノー： 基本的社会権についての宣言(Declaration of fundamental social rights)および倫理規定およびコンプライアンスルール(Code of ethic & compliance rules)



### iii) 環 境

#### ○環境マネジメント

幅広い環境活動を推進するため、各国・地域の法令を順守するとともに、今後の法令変更にも対応するよう努める。全社的な管理の仕組みを構築して、継続的に運用・改善する。情報を要求された場合、ルノー・日産に記録・報告を行う。

#### ○温室効果ガスの排出削減

各国、地域の法令を順守するとともに、今後の法令変更にも対応するよう努める。事業活動での温室効果ガスの排出を管理し、削減活動を推進する。エネルギーの有効活用を行う。データを要求された場合、ルノー・日産に記録・報告を行う。

#### ○大気・水・土壌等の環境汚染防止

大気、水、土壌等の汚染防止に関する各国・地域の法令を順守するとともに、今後の法令変更にも対応するよう努める。継続的な監視と汚染物質の削減を行い、環境汚染を防止する。データを要求された場合、ルノー・日産に記録・報告を行う。

#### ○省資源・廃棄物削減

廃棄物の適正処理・リサイクル等に関する各国・地域の法令を順守する。資源の有効活用により廃棄物の最終処分量の削減に取り組むとともに、水の消費量削減に努める。データを要求された場合、ルノー・日産に記録・報告を行う。

#### ○化学物質管理

各国、地域の法令を順守するとともに、今後の法令変更にも対応するよう努める。

環境汚染の可能性のある化学物質等を特定し、安全な管理を行う。

各国・地域の法令で禁止された化学物質を製品に含有しない。

製造工程においても禁止された化学物質は使用せず、各国・地域の法令で指定された化学物質に関しては、排出量の把握・行政への報告を行う。

データを要求された場合、ルノー・日産に記録・報告を行う。

○生態系の保護

事業活動と原材料調達を含む部品製造において、生態系の保護に努める。

○ルノー、日産の環境に関する基準

詳細は以下をご参照ください。

日産 : グリーン調達ガイドライン

ルノー : サプライヤーポータル <https://suppliers.renault.com>

## iv) コンプライアンス

### ○法令の順守

各国・地域の法令を順守する。

コンプライアンス徹底のための、方針や体制、行動指針・通報制度・教育等の仕組みを整備し、実施する。

### ○競争法の順守

各国・地域の競争法を順守して、私的独占、不当な取引制限(カルテル、入札談合等)、不公正な取引方法、優越的地位の濫用等の行為を行わない。

### ○汚職防止

政治献金・寄付等は各国・地域の法令に基づき実施し、サプライヤーの皆様と透明かつ公正な関係づくりに努める。

不当な利益・優遇措置の取得・維持を目的に、ビジネスパートナーに対して、接待・贈答・金銭の授受・供与は行わない。

### ○機密情報の管理・保護

顧客・第三者・自社従業員の個人情報、及び顧客・第三者の機密情報は、正当な方法で入手するとともに、厳重に管理し、適正な範囲で利用し、保護する。

### ○輸出取引管理

各国・地域の法令等で規制される技術・物品等の輸出に関して、適切な輸出手続・管理を行う。

### ○知的財産の保護

自社が保有あるいは自社に帰属する知的財産権を保護するとともに、第三者の知的財産の不正入手・使用、権利侵害を行わない。

## v) 情報開示

### ○ステークホルダーへの情報の開示

財務状況・業績、事業活動の内容等の情報をステークホルダーに対し、適宜・適切に開示するとともに、オープンで公正なコミュニケーションを通じてステークホルダーとの相互理解、信頼関係の維持・発展に努める。

### 3. サプライヤーの皆様へ

前述の通り、法令と社会通念上の慣習順守への近年の社会的要請が高まっていることと、サプライチェーンにおいても既に CSR 活動が浸透してきている状況を鑑み、ルノーと日産は、サプライヤーの皆様へ、本ガイドラインを順守していただくようお願いいたします。万が一ガイドラインに沿わない事例が発生した場合のとるべき対応も明記いたしました。

以下の内容にてご理解をお願いいたします。

1. ルノーと日産はサプライヤーの皆様へ、あらゆる法令・規範を順守することを求めます。これは本ガイドラインの「2. (B) iv)コンプライアンス」に規定されています。また皆様の調達先、委託先にも法令・規範の順守について推進していただくようお願いいたします。

2. 1 の実現に向け、社内体制を構築し、運用していただくようお願いいたします。

CSR の取り組みについてサプライヤーの皆様が自己診断し、自主改善できるように、ルノーと日産は評価・改善ツールを用意いたしました。サプライヤーの皆様には継続的な改善活動へのご参加をお願いいたします。

3. 万が一サプライヤーの皆様の事業活動においてコンプライアンス違反が発生した場合、ルノーと日産への即時報告と、調査結果・改善計画の報告をお願いいたします。改善計画が適切と判断されるまでの間、ルノーと日産は、新規 RFQ の発行を停止することがあります。

ルノーと日産は CSR に関する方針を基本契約に織り込みます。

ルノーは Sustainable development Section における一般取引条件 (General Purchasing conditions) に、日産は基本契約 (部品取引基本契約又はその他の基本契約) に織り込みます。

2010 年度中に 1～3 について、基本契約を改定する予定です。

既に日産と基本契約を締結しているサプライヤーの皆様に関しましては、基本契約の変更は行いませんが、上記 1～3 を確実に実行していただくようお願いいたします。

# 参考

## (I) 日産の CSR 基本方針

日産は「人々の生活を豊かに」することをビジョンに掲げており、製品・サービスの提供を通じた価値の創造はもとより、グローバルな、あらゆる事業活動を通じて、各国の社会のさらなる発展に貢献していくことを目指しています。この2つの目標に向かって、弊社の持続的な利益ある成長の追求と、社会に持続可能な発展をもたらすことを両立させる経営を行っています。両立させるには、CSR の概念を経営に取り込むことが有効です。そして、これはさまざまなステークホルダーとの信頼関係の醸成につながると考えます。



### 日産の考える CSR とは

近年、企業に対して CSR(企業の社会的責任)の視点に立った経営活動が求められており、多くの企業がそうした声に応えるために、CSR 活動の推進を強化しています。しかし、CSR の定義や推進手法は、国や企業、各種団体ごとにばらつきがあり、CSR のあるべき姿については世界中で議論され続けています。弊社では、CSR とはさまざまなビジネスの領域において、下の3つのバランスを追求するプロセスマネジメントツールであるにとらえています。

#### 日産が追求する3つのバランス

1. 短期視点と長期視点のバランス
2. 企業の成長と社会の発展のバランス
3. 企業が提供する価値のステークホルダー間のバランス

## 日産の CSR 方針と重点 8 分野

日産は、CSR を定義する「日産 CSR 方針」および「CSR 重点 8 分野」を定めています。

### 日産 CSR 方針

- ・日産のあらゆる活動は、倫理的行動、高い透明性に裏打ちされたコーポレートガバナンス（企業統治）、そして多様性の尊重のうえに成り立っています。
- ・私たちが目指すのは、企業として持続的な利益ある成長を追求すると同時に、持続可能なモビリティと社会の実現に向けて積極的に貢献していくことです。
- ・世界中のステークホルダーの声に耳を傾け、協力し合うことで、信頼と機会を生み出し、価値を創造し続けていきます。

### 日産 CSR 重点 8 分野

コーポレートガバナンス・内部統制：法令と会社のルールを順守し、公平・構成で高い透明性をもった効率的な事業活動を目指します。

経済的貢献：持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します。

品質：世界中でトップレベルの製品やサービスをお客様にお届けします。

環境：クルマのライフサイクルを通して環境に対する依存及び負荷を低減し、ゼロエミッションリーダーとして化石燃料に依存しない脱炭素社会の実現に貢献していきます。

社員：多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します。

安全：技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしていきます。

バリューチェーン：サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます。

社会貢献：「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の 3 つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組みます。

<b>Corporate Governance &amp; Internal Control</b> <small>Nissan aims to conduct fair, impartial and efficient business activities, having high degree of transparency and consistency by adhering to the applicable laws and corporate rules.</small>	<b>Environment</b> <small>Providing mobility with minimal environmental stress and dependency throughout its lifecycle, and exercise zero emission leadership in creating de-carbonized society that is independent from fossil fuel.</small>	<b>Safety</b> <small>Nissan develops innovative technology and plays an active role in safety promotion, making the automobile society safer for all.</small>
<b>Economic Contribution</b> <small>Nissan aims for sustainable, profitable growth, contributing to economic development for all of society.</small>	<b>NISSAN</b>	<b>Value Chain</b> <small>Nissan promotes ethical, environmentally sound actions in all stages of the supply chain.</small>
<b>Quality</b> <small>Nissan provides top level quality on products and services around the world.</small>	<b>Employees</b> <small>Nissan aims to form an attractive organization where diverse human resources can achieve personal growth from experience in global business.</small>	<b>Philanthropy</b> <small>Nissan carries out social contribution activities as corporate citizen, focusing on education, environmental awareness and humanitarian relief.</small>

## (Ⅱ) ルノーの CSR 基本方針

ルノーにおけるCSR方針は、先ごろ改定された企業ビジョンである「*Renault, a people-centric and innovative company, offering sustainable mobility for all* (ルノー、それは継続可能なモビリティを全ての人々に提供する人間中心かつ革新的企業)」と連動しています。

社会的責任を順守する企業として、ルノーは、企業活動、設備、製品およびサービスが社会に及ぼす影響を考慮し、有益な影響の最大化、負の影響の最小化、解消を目的に、考えられ得る全てのプロセスを実行しています。ルノーは経済、社会、環境における問題を各事業、各部門内に織り込み、ステークホルダーとの連携に自主的に取り組んでいます。

さらなる透明性と発展を追求する一方で、ルノーは従業員の基本的権利についての宣言(Declaration of Employees' Fundamental Rights)を調印し、倫理規定で定義された原則の順守と、国際労働機関(ILO)との整合性を確保します。

ルノーの eco<sup>2</sup> 戦略は、製品やサービスの環境への負荷を減らしつつ、手ごろな価格で製品やサービスを提供するというものです。そのため、ルノーはエコデザイン方針を実施し、自動車のライフ全体を通じての環境への負荷(材料、排気、リサイクルなど)を減らして、経済的な利点と人間重視の観点の歩み寄りを図っています。

ルノーは、企業の社会・雇用関係、あるいは環境に対する行為を規制する国際規格や基準に加盟しています。来たるべく社会・環境の変化や規制を先取りし、自主的に取り組んでいます。

ルノーは以下の社内ルールを定めています：

- 倫理規定とコンプライアンスルール
- 従業員の基本的権利についての宣言
- 適正実施と競争力のあるパフォーマンスに関する規定

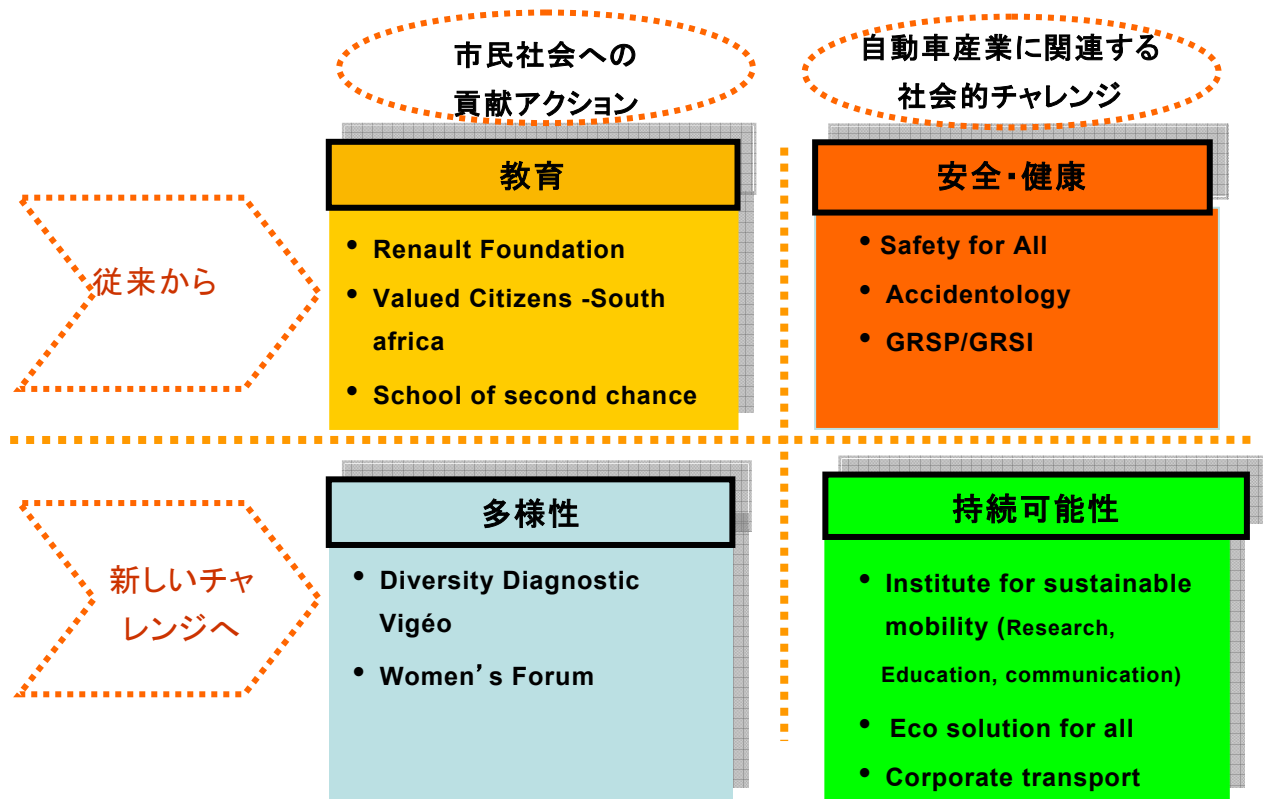
CSRネットワークの使命は、「ルノーの社会発展および持続可能なモビリティを通じた企業としてのパフォーマンスを擁護し、原動力となる」ことです。



ルノーのCSRの戦略的なゴールは以下の通りです：

- 全ての人々に対して継続可能なモビリティへのアクセスを平等に提供する
- 従業員の責任ある社会参加をやすくする
- 弊社の事業分野において、持続可能かつ継続的な成長を確保する
- オープンな対話でステークホルダーと情報を共有し、意識を高める
- 社内、およびパートナーネットワークにおいて、CSRの専門性を向上させる

### ルノーのCSRグリッド+具体例





**Renault S.A.S.**

CSR Department

Worldwide Purchasing Strategy & Business Plan Department

**日産自動車株式会社**

グローバルコミュニケーション・CSR 本部 CSR グループ

購買管理部